2026年11月10日

各　位

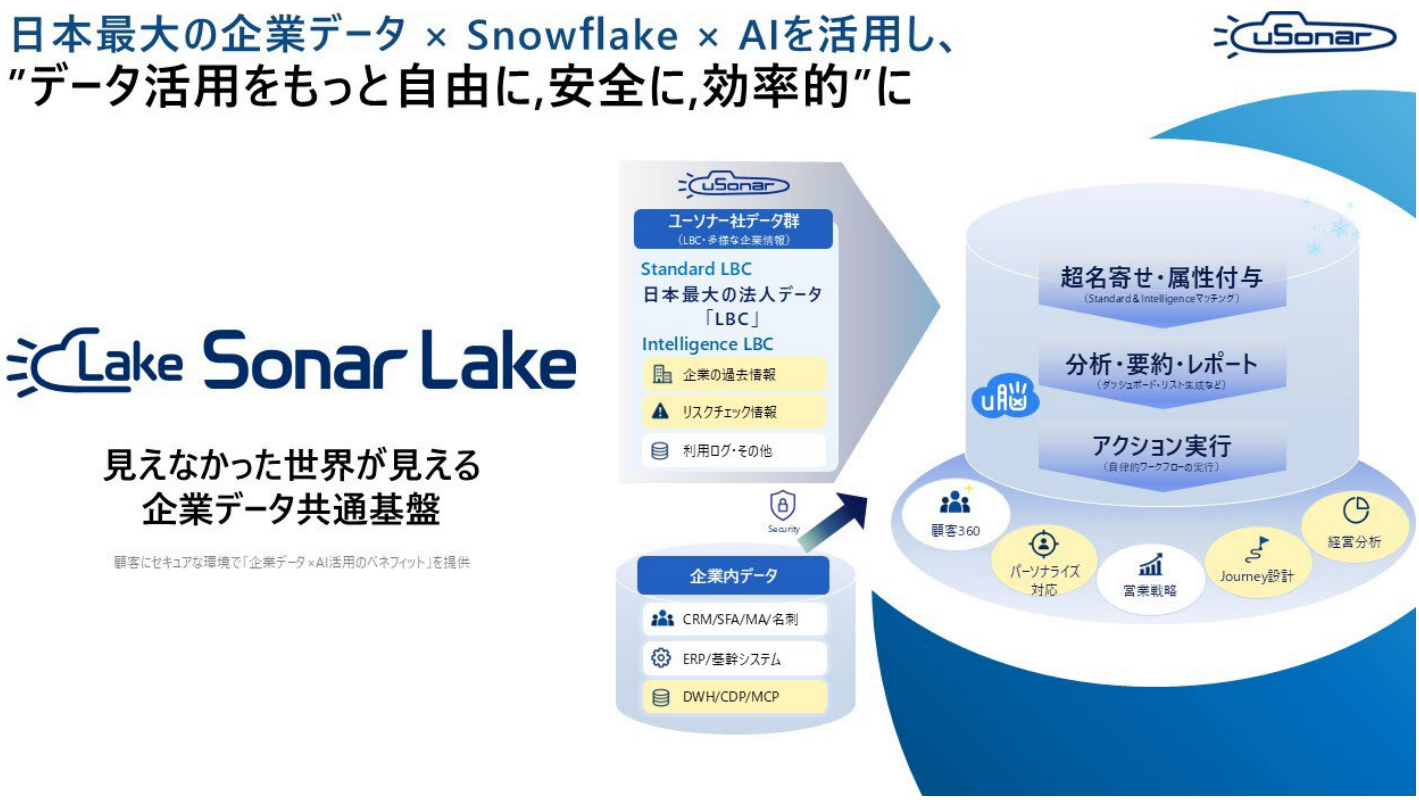
会　社　名　　ユーソナー株式会社
代表者名　　代表取締役社長CEO　　長竹　克仁
（コード番号：431A 東証グロース市場）
問い合わせ先　　取締役CFO兼管理本部長　北澤　光剛
TEL. 03-5388-5300

企業のAI活用を、部門最適から全社最適へ。ユーソナー、データ戦略クラウド「ソナーレイク」提供開始

～分散する社内データと法人企業データベース「LBC」をSnowflake上で統合、分析・意思決定をAIで支援～

ユーソナー株式会社（本社：東京都新宿区、代表取締役会長：福富 七海、以下「ユーソナー」）は、日本最大の法人企業データベース「LBC」※とクライアント企業の保有データをSnowflake環境で統合、AIエージェントによる分析から意思決定・業務実行までを支援するデータ戦略クラウド「Sonar Lake（ソナーレイク）」の提供を開始します。

Sonar Lakeは、Snowflake合同会社（本社：東京都中央区、社長執行役員：浮田 竜路、以下「Snowflake」）のAIデータクラウドを基盤とし、ユーソナーが35年以上にわたり構築・更新してきたLBCを自由に使える環境を提供するものです。この環境で、クライアント企業は、保有する顧客・営業・マーケティング・基幹システムなど、企業内に分散するデータとLBCを統合させ、AIで即座に分析することができます。



【詳しくはこちら URL：https://usonar.co.jp/content/sonar-lake.html 】

Sonar Lake は、部門やシステムごとに分断されていた自社データを、企業・系列・事業所の単位で整理され、多彩な企業属性が付与された LBC と統合することを通じて、AI によるデータ活用を全社最適へと高度化します。AI エージェントが必要なデータを参照し、分析、レポート作成、次のアクション候補の提示を支援することで、経営の意思決定レイヤーから現場の業務レイヤーまで、幅広く AI 活用の効果を実感していただけます。また、契約内容や利用権限に応じて、従来提供してきた情報に加え、企業の過去の変遷情報、売上高などの推定情報、人物情報など、活用できる情報を順次拡充し、提供していく予定です。

■ 開発の背景：AI・データ活用が部門やシステムに最適化され、分断されている

多くの企業で、CRM、SFA、MA、名刺管理、基幹システム、会計、Web 解析、議事録などさまざまなシステムでデータ活用が進んでいる一方、部門やシステムごとに管理が異なり分断されているため、次のような課題が生じています。

- 同一企業なのに部門やシステムごとに異なる名称で登録されている
- 本社・事業所・グループ会社の関係性が整理されていない
- 企業の統廃合、移転、社名変更などが反映されていない
- 社内データと外部の企業情報が結び付いていない
- AI や AI エージェントに参照させるデータの範囲と権限が適切に管理できていない

こうした状態では、個々の部門やシステムで AI やデータを活用できていても、全社を横断した分析や、一貫性のある AI 活用に限界があります。AI エージェントが業務を支援するためには、データの意味や関係性、利用権限を整え、信頼できる情報を継続的に参照できる状態にする必要があります。

ユーソナーは、全国 1,250 万超の事業拠点を収録する法人企業データベース「LBC」を提供し、クライアント企業のデータ活用を支援してきました。Sonar Lake では、LBC を企業データの統合キーとして用いることで、AI によるデータ活用を部門最適から全社最適へと高度化します。

■ AI・データ活用：「信頼できる」「意味の付与」「安全な接続」で成果を高める

企業の AI 活用は、文章の生成や要約から、社内データを参照して分析し、複数の処理を組み合わせて業務を支援する「AI エージェント」へと広がっています。自然言語で必要な情報を検索・集計し、示唆や推奨アクションの提示を受けるといった具合に活用が進んでいます。

AI エージェントを業務で活用するには、部門やシステムをまたぐデータの名寄せ、指標や項目の意味や文脈の共通化、アクセス権限、利用履歴などのガバナンスが欠かせません。また、管理されたデータ基盤上で AI 分析を行い、MCP や API を通じて AI エージェントと業務システムを安全につなぐ環境が求められています。

■ データ統合から業務実行までを、一つの基盤でつなぐ

Sonar Lake では、顧客、営業、マーケティング、契約、会計、Web 解析などの社内データを、LBC を用いて企業単位で統合します。契約内容に応じて、業種、企業規模、本社・事業所・グループ、更新履歴などの情報を付与します。

Sonar Lake は、自社データと外部の企業データを組み合わせ、AI エージェントによる分析結果を具体的な判断やアクションへつなげる「データ戦略クラウド」です。

■ Sonar Lake の主な特長

1. LBC を統合キーとした高精度な企業データ整備

社名の表記ゆれ、旧社名、所在地変更、本社・事業所、グループ会社などを LBC で名寄せし、複数システムに分散するデータを同一企業単位で統合します。LBC コードの付与により、CRM、SFA、MA、会計などを横断して分析できます。また、定期的なマッチングにより企業情報を常に最新化します。

2. 自社データとユーソナーの企業データを安全に連携

Sonar Lake では、利用企業ごとに独立した`専用の分析環境をご用意し、LBC と自社データを組み合わせた分析や AI 活用を可能にします。ユーソナーの企業データは、契約内容と権限に基づき必要な範囲で共有します。すでに Snowflake をご利用の企業は、Snowflake Data Sharing により、データを複製することなく既存環境で LBC をご活用いただけます。

3. 企業データを AI 分析に活用

標準 LBC の企業属性や、本社・事業所・グループの情報に加え、インテントデータなどを AI 分析に活用します。さらに、契約内容や利用権限に応じて、企業の過去の変遷情報、売上高などの推定情報、人物情報など、分析に活用できるデータを順次拡充していく予定です。これにより、企業の現在の姿や多様な特徴に加え、時系列で変化を捉えることで、お客様や取引先への理解を深め、将来の動向を予測するための分析にも役立てることを目指します。各データは、契約条件や利用権限などに応じた範囲で取り扱います。

4. AI エージェントが分析から次のアクションまでを支援

AI エージェントは、必要なデータを横断的に参照し、企業の抽出・比較、要因分析、変化のモニタリングなどを行います。優先企業、提案テーマ、営業メール案、フォロー対象、次のアクション候補を提示し、人の意思決定と業務実行を支援します。

5. 企業の「現在」だけでなく「変化」を捉える

企業・人物の変遷、拠点の開設・移転、組織変更、人事異動、設備投資、求人、ニュース、広告、Web 上の関心変化など、企業の変化を示すデータを順次拡充します。AI エージェントが変化を継続的に捉え、営業機会や取引リスクの兆候を把握します。

■ 想定する活用領域

営業

顧客情報、商談履歴、売上実績、Web 解析、LBC などを組み合わせ、優先アプローチする企業とその理由を分析します。

マーケティング

企業・系列・事業所単位でデータを統合し、業界別浸透率、未開拓市場、理想顧客像、需要テーマなどを分析します。

経営・事業企画

自社の売上・契約データと市場母数、企業規模、業績、拠点などから、市場ポテンシャルや顧客ポートフォリオを分析します。

カスタマーサクセス

契約・利用状況、問い合わせ履歴、顧客企業の変化、Web 解析などを分析、解約リスクやアップセル機会を把握します。

リスク管理・審査

本社・事業所・グループ単位で取引や与信情報を統合し、集中リスクや業績悪化の兆候を分析します。

AI エージェントによる業務支援

企業情報の検索・分析に加え、定期レポートの作成、変化の監視、担当者への通知、外部システムへの結果連携など、継続的な業務支援へ展開します。

■ Sonar Lake（ソナーレイク）は Snowflake の AI データクラウドを基盤に構築

ユーソナーは 2026 年、Snowflake Partner Network において、「Snowflake AI データクラウド サービスパートナー」の Select パートナーに認定されました。

https://usonar.co.jp/news/20260901_1862.html

Sonar Lake では、Snowflake の AI データクラウドを基盤に、Snowflake Data Sharing による安全なデータ共有と、Cortex AI による検索・分析が可能です。今後は、利用企業の要件に応じて Cortex Agents、Streamlit、Snowflake Openflow、外部の MCP、各種 API を活用し、AI エージェント、AI アプリケーション、業務システムの連携にも対応する予定です。

■ Snowflake 合同会社　社長執行役員　浮田 竜路様のコメント



ユーソナー様が 35 年以上にわたり構築・蓄積してこられた日本最大の法人企業データベース「LBC」と、Snowflake のデータクラウドを融合した「ソナーレイク」の提供開始を心より歓迎いたします。

企業内に分散するデータと LBC を安全に統合し、AI エージェントによる分析・意思決定を全社横断で実現するこの取り組みは、日本企業のデータ活用を次のステージへ引き上げるものと確信しております。

Snowflake は引き続き、ユーソナー様とともに企業のデータ活用の可能性を広げてまいります。

■ ユーソナー株式会社 代表取締役社長 CEO 長竹 克仁のコメント



企業はすでに、さまざまな部門やシステムでデータを活用しています。一方で、それぞれのデータが分断され、企業単位で正しくつながっていないため、全社を横断した分析やデータ・AI の活用に十分生かし切れていないケースも少なくありません。
Sonar Lake は、LBC を統合キーとして、お客様がこれまで蓄積・活用してきたデータとユーソナーの企業データを Snowflake 上で組み合わせた AI-Ready なデータ環境です。AI や AI エージェントが企業をより深く理解し、その分析を人の意思決定と業務実行につなげる環境を提供してまいります。
LBC を AI 時代の法人データインフラへと進化させ、お客様の事業成長に貢献してまいります。

■ 今後の展開：企業の意思決定と業務実行を支える「法人データインフラ」

ユーソナーは今後、企業・人物の変遷データなど、企業の変化を捉えるデータを拡充していきます。また、それらのデータの強みを活かし、CRM、SFA、MA、会計、基幹システムとの連携を強化するとともに、AI エージェントによる営業、マーケティング、経営分析、カスタマーサクセス、リスク管理などの業務支援の領域へと事業領域を拡張してまいります。

ユーソナーは、LBC を中核に企業内外のデータと AI を安全につなぎ、企業の意思決定と業務実行を支える「法人データインフラ」へと進化させてまいります。

■ Snowflake について

Snowflake は、あらゆる組織がデータから価値を引き出すことを可能にする AI データクラウドを提供しています。このクラウドは、企業のデータを統合し、サイロ化されたデータソースを排除することで、ビジネスユーザーがより迅速かつ効果的にインサイトを得られるように設計されています。Snowflake AI データクラウドは、企業がデータの力を解き放ち、次世代のビジネスを構築するための基盤を提供します。
https://snowflake.com/ja

※「LBC」について...日本全国の事業所に 11 桁の管理コードを採番したユーソナーの法人データです。業種や売上高、利益、従業員数、固定 IP アドレスなど豊富な企業の属性情報を紐付けて一元管理しています。取引先データを「LBC」と突合することで、取引先を除いた精緻なターゲティングを可能にします。日本最大...日本企業の本社及び事業拠点データ保有数の自社調査結果から（2026/10/1）

https://usonar.co.jp/service/usonar/#serviceLbc

※記載されている会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。

以上